

妖刀の件を終えて暫くが経ち
ある日、私に恋人ができました



人と妖という立場上、会うことのできる回数も多くはないので
いつもその日はまず肌を合わせることから始まります

お酒でぼかぼかになった身体に
脳まで蕩かすような熱い接吻

まるで舌が
溶けてしまったのような熱

この瞬間

前戯はせずとも既に身体は出来上がっていて
早く早く子宮が一物を求めます

経験数はどちらかと言えば多い方がと思うのですが
身体の相性が良いとでもいうのか
彼との行為は格別です♡

心地良い一時・・・

積もる話は沢山あれど
それまでの寂しさを伝え合うように
肌をぶつけ合います

すると彼は急に私の秘部を広げ
自らの精液が溢れ出てくる様を
見つめてきました

「私に出さずして虚空へ無駄撃ちですか」と

まずは一発目
ずっしりと重い精液が
私の膣を満たすのがわかります

聞けば
「一人でする時のために目に焼き付けておきたい」
とのこと……

ほんのちよつぱり少しだけ拗ねましたが
気持ちよさそうな顔を見ている内に
まあそういう時もあったもいかなと

私だって寂しい
友よ友よ自づから

本格的に身体が温まってきてからは
行為の勢いも増していきます

まるで獸同士のそれのように
言葉ではない叫びともとれるような
嬌声を響かせ――

二発、三発と
流し込まれる精液・・・

特に射精量や回数を重ねるための体力は私の術で強化を施しており

萎えず、減らずで
夜を越せるようにと
してあります

互いに痕を付けあつて

互いが所有者なのだ
と主張しあつて

互いに番であるのだと伝え合う



時折少しの休憩を挟んで

また元気を取り戻したなら

さつきよりも更に
重く、激しく

秘部を貫いた肉棒が
身体の内から挟り回すその息苦しさを
快楽へと昇華させていってー

強い雄に抱かれるという
雌にとつての極上のご褒美を

一夜でありながら
何度も、何度も味わせていただいています♡

絶頂と共に
子宮の中を丸ごと上書きしていく



♪



花

ちなみにですがその後は
「でえと」なるものを楽しんだ後

せっかくなので里に招き
ナリハ様に紹介しようとしたところ、
彼の髪の毛がほんの少し燃える(燃やされる)
という事件が発生しましたが――

それは別のお話ということで

















